

「神の約束」

ガラテヤの信徒への手紙 3 章 7 - 14 節

森島 牧人 牧師

今日も、ご一緒にガラテヤ書を学んで行きましょう。先回にも申しましたように、宗教改革を行ったマルティン・ルターはガラテヤ書を説き明かした大著の中で、「キリストは私たちを律法の呪いから贖い出してくださいました。」と書いています。

主イエスの十字架上での罪人としての死、それこそは主が私たちの身代わりとなって律法の呪いを受け、私たちを贖い出してくださいました出来事でした。〈贖う〉という言葉は、市場（アゴラ）と関係があり、市場で代価を支払って物を買うことです。聖書は、旧約聖書の初めから新約聖書の終わりまで、この主イエスの贖罪の御業を常に伝えているのですが、その深淵さ・偉大さゆえにあまりにも難解で、私たちは本来の意味・内容を十分に理解することができませんでした。しかしルターは、「主イエスが自らの十字架の御業を代価として、私たち人間を、律法から解放してくださいました」と、このガラテヤ書の注解で伝えているのです。

今日の聖書に出て来る「律法の呪い」とは、律法の要求を果たせない人間は神との交わりから外され、罪人として処罰されるというもので、人々を脅かし、不安を煽るものでした。しかしキリストは、罪人として死ぬべき私たちを、御自身の十字架上の屈辱的な死という代価によって買戻し、主にある自由な新しい命へと入れてくださったのです。

今日の聖書・ガラテヤ 3 : 13 は、「キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました」とありますが、さらに 3 : 14 には、そのことの目的が書かれています。それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて〈異邦人〉に及ぶためであり、また、わたしたちが、約束された《霊》を信仰によって受けるためでした。」とあります。

つまり、これを読むと、キリストの十字架の贖罪には私たちの解放という意味だけではなく、目的があることがわかります。その一つは、アブラハムに与えられた祝福がキリスト・イエスに於いて異邦人否全人類に及ぶためですと…。とするならば、主イエスの出来事を、全く知らない異邦人にそれを告げる、すなわち伝道が必要です。世界に出て行き「あなた方も救われる」と伝えなければならないのです。

もう一つは、約束された《霊》を、私たちが〈信仰によって〉神からの恵みとして受けるということです。これは神との交わりに生きる者、つまり神の子とされるということで、バプテスマを受けることと結びついています。バプテスマを受けることは神からの新しい命を受けるということであり、その約束の霊を律法によってではなく〈信仰によって〉私たち罪人・人間が受けるために、主イエスは十字架による贖罪を果たされたと、聖書は語っているのです。ですからルターは大著の中で「我々が主イエスの出来事を信じるのをキリストは欲しておられる」と注解しています。人間の業である律法ではなく〈信ずること〉が重要だと説くルターは、「主が私たちに果たしてくださいました全ては、信仰によって受けることができる。あなたは信ずる分だけ持つことができるのだ」と激しい口調で述べています。

しかしこのルターの言葉を受ける私たちは、「一体、主イエス・キリストの御業による賜物を全部きちんと受けているのか」と問われるからです。つまり、主イエスは私たちの罪の呪いを全て取り除き、100%の賜物をくださるために十字架に架されました。にもかかわらず、時として私たちの信仰生活の力が弱いという状況があるとすると、つまりそれは、せつかくの神の御業・神からの 100%の賜物を三割ほどしか用いていない、つまり三割ほどしか信じていないという在り方ではないか。その様な生き方をしているとするなら、一体それはどういうことかという厳しい問いの前に立たされるからです。

主イエスが、御自身を代価として果たしてくださいました贖いによる私たちへの祝福は、莫大なものです。神が私たちに約束された霊は、偉大なものです。それを 100%賜った私たちは、信じる分だけ、それを持つことができるのです。

ですから、「豊かに力強く信じて感謝の内にそれを丸ごと受け取り、その大きな喜びの中に強く生きて行こうではないか」というのが、ルターのこの部分へのメッセージだと思います。信ずるだけ持つことができる・・・私たちはもっと信じて、もっと豊かに生きることができるのです。主の出来事の目的である伝道のために、もっと逞しく、力強く生きて行くことができると思うのです。

(説教要約 羽入田悦子)